

佐世保市教育委員会の自己点検および評価について

外部評価者 木山泰寛

昨年に引き続き、佐世保市教育委員会がとりまとめた「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について行った点検及び評価(23年度分)」について意見を述べる機会をいただいた。昨年も感じたことではあるが、教育委員会が所管する事務や教育推進に関わる事も含め、膨大な業務を着実に進められていることにまず敬意を表したい。

1 内部評価結果(総括)について

平成23年度の内部評価によると「平成23年度においても、本市教育水準の維持向上に努め、概ねその職責を果たした。」とあるが、教育委員会の活動状況、教育委員会が管理・執行する事務、教育委員会が執行を教育長に委任する事務のいずれの項目においても、これまでの反省や指摘を生かした取り組みや改善の跡がみられ、総括は適正である。特に前期教育委員会を勉強会と位置づけ、テーマを設定してその現状と課題について事務局と共に考えていくスタイルが定着してきていることは、委員会活動のより一層の奥行きを広げるものと考えられる。

2 評価シート①「教育委員会の活動状況」について

※ 教育委員会の構成について

- ・ 本市の教育委員会は5名の委員から構成されているが、男女比40%、平均年齢55.0歳は、平成23年度全国平均の男女比34.9%、平均年齢59.3歳と比して適正である。

※ 教育委員会会議の開催状況について

- ・ 教育委員会会議の開催状況は、開催数が前年度に比べ減少しているが、これは勉強会と位置づけられている前期教育委員会および臨時教育委員会の減によるもので、規則で規定されている年間開催回数を十分に満たしている。年度末の定例会議では平成24年度の前期教育委員会(勉強会)の年間スケジュール案についても協議され一定の方針が固まっており、今後さらに活発な開催が行われるものと思う。
- ・ 委員の出席状況についても欠席はなく、議事録によると各委員の熱心な協議の様子が窺われる。会議開催にあたって事前に資料を送付したり、会議に出席する各課かい長からの説明を求めるなどの運営上の工夫による成果であると思う。

※ 教育委員会会議の公表状況について

- ・ 情報公開については23年度も定例教育委員会の状況をHP上で公開しており、過去の記録と併せて直近の内容にもふれることができる。また教育委員会会議の開催予定についても期日や議事内容の提供をしており、情報公開に努めているといえよう。
- ・ 教育委員会会議の傍聴に関しては、傍聴しやすい環境づくりに努めておられるが、教育委員会というと、一般にとってはなかなか堅苦しい敷居の高い所というイメージがあるようである。親しみのある身近な教育委員会をより一層PRする中で、教育行

政に対する市民の関心を高める取り組みを継続して欲しい。

※ 行政等が主催する行事への出席状況について

- ・ 平成23年度の行政主催行事への出席数はのべ146人で、どの行事にも1名から4名の出席があり、十分職責を果たしている。

※ 議会出席状況について

- ・ 議会は地域の代表としての各議員の考え方を客観的な立場で知ることができる。全ての委員が出席し地域住民の願いや課題等を知る機会としていることは、教育行政を押し進める上で重要なことであり、高く評価できる。

※ 首長との連携について

- ・ 首長との意見交換会は平成21年度・22年度に引き続き全委員の参加で行われている。教育予算等について、教育委員会としてのビジョンを示し説明する場として今後も是非継続して欲しい。

※ 教育委員の自己研鑽について

- ・ 出席義務や出席努力としている会議や研修のほかに、自主判断による各種研修会や行事等に積極的に取り組んでいる委員の姿勢は大きく評価できる。各委員の活動状況として会議や行事等への出席回数を集計してあるが、ある委員は、全出席回数の3分の1以上を自主判断による研修として各幼稚園・小学校・中学校の行事や研究発表会、地域行事等に出席している。教育委員のこのような参加のあり方は、計画的な学校訪問や行政主催の行事への参加とはまた違って、普段のままの子どもたちの姿や学校経営の様子・地域の願いや課題を知ることができ、高く評価できる。

※ 学校訪問について

- ・ 平成23年度は小・中学校合わせて12校の訪問が予定通り行われている。学校訪問は教育委員会にとっては地域や学校の実態を知る上で、学校にとっては日頃の取り組みを評価してもらう上で、大変重要なものである。最近は広域人事の見直し等でこれまで交流がなかった地区からの教員や管理職員の転入も多くなった。佐世保市の教育を周知徹底させる上でも学校訪問に力を入れて欲しい。

※ 教育に関する外部団体等との意見交換について

- ・ 外部団体との意見交換の回数が大幅に増えており、文教厚生委員との意見交換会での4名の出席をはじめ、各会に1名から4名の委員が参加している。幅広い層の意見や考えに触れる好機であり、今後とも外部団体との連携を深めて欲しい。

3 評価シート②「教育委員会が管理・執行する事務」について

議事録を見ると各委員の考えが出され活発な議論がなされている。また昨年度に引き続き予算編成に教育委員会の意見を反映できるよう会議を設定するなどの努力が見られ、内部評価は適正である。これまでの反省や評価がよく生かされ、前期教育委員会をテーマに基づく勉強会としたり、議案に関する資料の事前送付、議事進行の工夫等、事務局と各委員が一体となった取り組みの跡が随所に見られる。

4 評価シート③「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」について

平成23年度は84の事務事業が点検評価の対象となっている。担当各課別では学校教育課15、社会教育課18、スポーツ振興課17、総務課15、青少年教育センター5、教育センター2、その他図書館・少年科学館・総合教育センター課・島瀬美術センター・市民会館・公民館・合併6地区の生涯学習センター各1で、これは前年度に比べ8事務事業の減となっている。

それぞれの担当課が各事業の23年度の実績を、対象・目的・手段ごとに対象指標・成果指標・活動指標で表し、目標に対する実績として達成度を割り出している。そしてその結果を、妥当性・有効性・効率性・総合評価という4つの観点から考察し、次年度の事業改善に生かそうとしている。合併6地区の「生涯学習センター事業」や「特別支援教育相談事業」など機構の再編により24年度から休止される事業があるが、それとは別に実績や総合評価の結果を踏まえた上で休止を打ち出した「野外教育活動推進事業」がそのひとつである。多岐に亘る事務事業一つ一つに担当各課の真摯な取り組みの跡が見られ、マネジメントサイクルを生かした改善に向けての取り組みは高く評価できる。

5 終わりに

他県でのいじめの問題が端緒となり、教育委員会の形骸化や民意を反映しない教育委員会などと、教育委員会に対する批判の多い中での外部評価となった。

昨今、教育に関する市民の関心はますます高まってきており、教育委員会は保護者や市民に対して市の教育施策について広報するとともに理解や協力を求めていくことも大きな役割となってきている。事あるごとに自分の足で現場に出向き、見て、聴いて、感じていただきたい。実際の現場の様子や市民の声を通して課題や実情を肌で感じ取ることが、その後の対応に欠かせない。これからも市民に親しまれ、信頼され、理解される教育委員会であっていただきたい。